

令和4年度シラバス

文化学園大学保育専門学校

科目名				授業の種類	授業担当者
子どもの理解と援助				演習	栗原博士
学年	単位	時間数	授業回数	履修時期	選択・必修
1	1	30	15	後期	幼免:選択 保育士:必修
〔授業の目的・ねらい〕					
<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人ひとりの心身の発達や学習過程、子どもを理解する上での基本的な考え方や具体的な方法、保育者としての援助や態度の基本について習得する。 					
〔授業全体の内容と概要〕					
<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達や学びに関する知識を、単なる知識にとどめず、保育者が実際に活用できる実践力を養う。 					
〔受講上の注意事項〕					
<ul style="list-style-type: none"> 毎回、事例検討やロールプレイを行うため、積極的に取り組むこと。 グループごとにPC(Word、Excel、PowerPointなど)を使い、テキストをまとめたり、意見をまとめたり、発表したりする。 					
〔使用テキスト〕			〔評価基準〕		
<ul style="list-style-type: none"> 「子どもの理解と援助 演習ブック」(ミネルヴァ書房) 			試験(20%)、授業に臨む姿勢や発表・グループワーク(80%)		
〔授業の日程と各回のテーマ・授業内容〕					
回	項目	授業内容			
1	オリエンテーション/子ども理解の意義	授業の進め方/子どもを理解すること			
2	養護と教育の一体的展開	保育における養護と教育			
3	共感的理解	共感とは何か			
4	生活と遊び	遊びを通して、子どもの成長を考える			
5	人的環境としての保育者	子どもの成長を促すための保育者としての関わり方			
6	集団での育ち/葛藤やつまずき	集団の中での子ども同士の関わりについて			
7	保育環境の理解と構成	子ども理解を踏まえた保育環境を考える			
8	環境の変化や移行	子どもを取り巻く環境が子どもに与える影響について			
9	観察・記録・省察・評価	観察・記録・省察・評価を通して、子どもを理解する			
10	職員間の対話	職員間の連携を円滑にする			
11	保護者との情報共有	保護者とどのように情報を共有していくか			
12	発達の課題に応じた援助と関わり	各発達段階に応じた関わり方			
13	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	インクルーシブ保育について			
14	就学への支援	切れ目のない発達を支える			
15	テスト				
実務教員としての経歴					
実務経験と授業の関連					